

2026(令和8)年度
総合型選抜(スポーツ実績選考型)

小論文
(時間 60 分)

下の新聞社説を読み、「食品ロス削減」について、あなたの意見を述べなさい。ただし、次の1~3の内容を含んだ構成とし、300字以上600字以内で書きなさい。

1. 日本の食品ロスの現状はどのようなものか。
2. 日本の食品ロス削減において大きな柱となるものは何か。
3. 消費者として食品ロス削減のために何ができるか。

なお、誤字・脱字、常用漢字不使用は減点の対象となるので注意しなさい。また、指定された文字数に満たない場合は、評価対象外になります。

食品ロス削減へ商習慣見直し（社説）

本来食べられるのに捨てられる「食品ロス」の削減が急務である。地球温暖化や世界的な食料危機のなか資源の浪費は許されない。最近のコメ不足と価格上昇も受けて食品の扱いが問われている。

日本の食品ロスは2023年度に約464万トンで、国民1人当たり年間約37キログラムに上る。国連の持続可能な開発目標（SDGs）にも削減計画が盛り込まれており、日本政府は3月、新たな目標を公表した。食品関連業から発生する事業系ロスを30年度までに00年度比60%減らす。

目標達成に向けて商習慣の見直しは大きな柱である。メーカーは製造日から賞味期限までの期間のうち最初の3分の1の期日を過ぎると、スーパーなどに納品できなくなる慣習がある。これが廃棄につながるとして政府は「2分の1」などへ条件を緩和することを促し、一定の成果を上げてきた。

公正取引委員会は「3分の1」など一方的なルール設定は独占禁止法違反の恐れがあるとの見解を5月に示した。製販の間で廃棄リスクを押しつけ合うことがないよう、十分に協議し納品期限を緩和してほしい。人工知能（AI）などデジタル技術で需要予測の精度を高めれば、サプライチェーン*全体で廃棄を減らしやすくなる。

値引きしない定価販売を原則とするコンビニエンスストアの事業モデルも廃棄を多く生んできた。社会的な批判もあり、おにぎりなど消費期限が近づいた一部商品を値下げして売り切るよう各社が転換しているのは望ましい。

今月、日本マクドナルドではおもちゃ付きセットメニューを巡り転売目的の大量購入や食品廃棄が起きた。期間限定の販促策を考える際もロスを抑える工夫が要る。

日本の食品ロスの半分は家庭から生じる。消費者として日々の生活で食べ残さない心が大切なのはもちろん、賞味期限が近い食品を避ける意識が変われば、企業もロス低減に向けた対策をとりやすい。政府は企業・消費者双方への啓発を続けなければならない。

(2025/08/23 日本経済新聞 朝刊 2 ページ)

* サプライチェーン…原材料の調達から製造、流通を経て、製品が最終的に消費者に届くまでの一連の流れのこと。